

奈義町

1 推進体制

平成18年10月27日に奈義町長を会長とする第19回全国生涯学習フェスティバル奈義町実行委員会（委員18名）を設置し、実施計画案を策定するため実行委員会に専門部会を設けました。専門部会では、関係する団体の役員や町職員を中心とした委員により、横仙歌舞伎大公演及び那岐山トレッキング大会等の生涯学習フェスティバル奈義町実施計画（案）を策定することとしました。

2 基本方針

岡山県が主催する第19回全国生涯学習フェスティバルでは、恵まれた学習資源を十分に活用し、官民協働による県民総参加のもと、「晴の国岡山国体・輝いて！おかやま大会」等で培った「おもてなしの心」を引き継ぎ、県民がふるさとに愛着と誇りを持ち、生涯学習による「人づくり」「地域社会づくり」に向けた生涯学習推進の大きな弾みになることを目指して開催をすと位置づけられています。そして、従来は県内に数箇所の開催地を設け事業を地域ごとに実施する拠点開催地方式でしたが、岡山県では県民総参加の方針により、全国生涯学習フェスティバルでは初めての試みである全市町村での事業実施となりました。

奈義町実行委員会では、次のとおり基本方針を策定し、事業推進を図りました。

- 官民協働で既存の事業も活用・充実しながら奈義町らしさを生かしたフェスティバルにします。
 - 誰もが参加・交流・体験でき、学びを身近に感じることができるフェスティバルとします。
 - 町民の「一体感の醸成」「人づくり」「地域づくり」に寄与できるフェスティバルにします。
 - 開催の成果が継承されるフェスティバルにします。
- 以上、この4つを基本方針とし奈義町事業に取り組む事とし、奈義町実行委員会ではこの基本方針に沿って次のように事業を計画しました。
- この機会に、町外の方には奈義町の代表的な歌舞伎や那岐山などを取り入れた事業を展開し、奈義町に来ていただき、その良さをよく知っていただく。
 - 町内の方にはボランティアによる運営への参加を求め官民協働により一体感を養い、併せて人づくりを図る。また、事業への参加により交流とふれあいの場とし、地域づくりに役立てる。
 - 歌舞伎においては、今まで出来なかった他県の歌舞伎

保存団体との交流や新たな演目と演出への取り組みにより、横仙歌舞伎保存会を更に活性化させる。

- 那岐山を事業に取り入れ参加者の誰もが自然と健康について体感でき、爽やかな汗のもと、心を開いた交流を図る。以上としました。

3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の企画にあたり、開催の主旨や目的及び基本方針に従った奈義町主催事業の内容を検討し、横仙歌舞伎の大公演と奈義町のランドマークである那岐山のトレッキング大会を中心として事業展開することとなり、そこで、関係する団体やグループなどと共に協議を重ねました。

(2) 事業展開

- ① 岡山県の北東部、中でも横仙地方に江戸時代中期から一度も絶えることなく昔の姿を今に伝えるものとして公演されている「横仙歌舞伎」を伝統芸能として広く県内外の方に紹介する。併せて、フリーマーケットや歌舞伎写真展などを同時開催する。
- ② 奈義町の町章にもなりシンボルとなっている那岐山のその美しい姿と紅葉を皆さんに見て頂き、家族や友人と歩くことで健康づくりやコミュニケーションに役立てる。また、食の安全や食育がいわれているなかで、地元の特産品や収穫したての新鮮で安心・安全な食材を用いた昼食を提供し、味覚の秋と安全な食事を考える。
- ③ 岡山県総合運動公園の桃太郎アリーナで行われる生涯学習見本市では、奈義町のもう一つのセールスポイントである現代美術館「奈義モカ」や化石博物館の「ビカリアミュージアム」などを中心とした生涯学習施設と、浄土宗の開祖「法然上人」が幼少の頃修行されたお寺「菩提寺」やお手植えとされる国指定の天然記念物「大公孫樹」などの文化財等を写真や映像を使ってビジュアルで紹介する。
- ④ その他、現代美術館などの生涯学習施設では、生涯学習フェスティバル期間中休館日を閉館とし、来町者を迎える。以上としました。

(3) 事業推進

① 歌舞伎大公演

歌舞伎公演にあつたては、開催時期の変更、出演団体との交渉、すでに11月3日発表会が予定されていた町内学習グループとの調整などを行いました。そして、県外保存団体への出演依頼、他団体と専門家への新しい演目の振り付け・演出指導について横仙歌舞伎保存会との調整に時間を費やしました。

② 那岐山トレッキング大会

大会運営に関わる団体や補助金の申請・運用について調整しました。

4 広報・啓発

(1) のほりによるもの

町内公共施設周辺や会場への掲出

(2) チラシによるもの

町内全家庭への配布

新聞折込での配布

(3) 看板によるもの

町中心地への大会周知看板掲出

(4) ポスターによるもの

県内の「道の駅」を中心に掲出

(5) 新聞広告によるもの

全県版への掲載

(6) 懸垂幕・横断幕によるもの

開催施設及び町役場への掲出

(7) 有線放送によるもの

有線放送を用いて町内全家庭へ告知

(8) 町広報紙によるもの

町広報紙への掲載

(9) タウン情報誌によるもの

タウン情報誌への掲載

(10) 県広報グッズによるもの

県実行委員会で作製した啓発グッズによるPR活動

5 成果と課題

(1) 成果

歌舞伎大公演

- ・新しい演目を公演することで専門家や他団体から指導を受けることができ、技芸に幅を広げることができた。
- ・他県の保存団体と交流することができ、情報交換を図ることができた。



こども歌舞伎教室による太功記十段目



参加者全員で行った吉備キビ桃太郎体操

- ・県実行委員会による新聞やラジオなどのメディアでの広報により、新たな来町者の獲得ができた。
- ・町内の観光スポットを県内外の方々に広く紹介することができた。
- ・昔の歌舞伎や舞台の写真展などを併せて開催することで、歌舞伎に新たな関心を持って頂くことができた。
- ・トレッキング大会では小学校PTAの参加もあり日頃参加の少ない年代層の参加を得る事ができた。
- ・ボランティア参加のFOS少年団、中高生、町内一般者、女性の会、町職員などが一体となって事業を盛り上げることができ地域づくりの一端を担うことができた。

(2) 課題

- ・町内者の来場者や参加が少なく、特に生涯学習見本市については、町内者への広報に課題が残った。
- ・生涯学習見本市では、他のブースに比べ見学者が少なく、体験や物づくりを取り入れるなど工夫が必要だった。
- ・実施事業は既存の事業を発展させたもので、奈義町の特徴的な事業であるが、新たな生涯学習の提供には至らなかった。また、費用対効果についても検証する必要がある。



2コースに分かれ那岐山麓をトレッキング

新庄村

1 推進体制

全国生涯学習フェスティバルの市町村事業については、まず、どんな事業を展開するかについて、内部協議を行いました。例年3月に行っていた「ふるさと文化祭（生涯学習推進大会）」をこの期間にあわせて実施する案が出され、それを原案として関係方面で協議することになりました。

最終的に、平成18年11月の文化団体の連絡会議で承認をもらい、同月の社会教育関係委員会でも承認をいただいたということで、計画を進めることになりました。今まで実施してきたことを実施時期の変更ということなどで、実行委員会を設立せず、新庄村公民館が事務局で、文化団体の連絡会議を母体にして推進することになりました。

2 基本的な方針

連絡会議の中では、実施時期が変わるが、内容を大きく変えずに、今までどおりの内容で実施した方が、村民もとまどうことがないし、参加もしやすいだろうということだったので、今までやってきたふるさと文化祭と同じように、「みんなが参加しやすく、親しみやすい」生涯学習の取組とすることを目標に掲げました。内容については、11月3日、4日を中心に、「風の子文庫まつり」、「中学校学習発表会」、「ふるさと文化祭」の実施になりました。

3 企画運営・事業の展開

3月に実施していた行事を4ヶ月間早めるということになるので、村民、文化団体へ早めの周知と取組のお願いを平成19年1月から行いました。村民へは広報紙、文化団体へは文書、または直接係がお願いするという形です。取り掛かりが早かったこともあり、夏までには実施時期の変更が周知できたように思います。

昨年度の段階で、学校を含めた各種団体に意向を聞き取り、最終的に、風の子文庫、新庄中学校、新庄村公民館の、三団体で事業を展開するよう調整しました。

「風の子文庫まつり」は、風の子文庫が自主的にプログラムの作成と運営を、「新庄中学校学習発表会」につ

いては、中学校が運営を、「ふるさと文化祭」については新庄村公民館で運営と言うように各々独自の計画を行いました。

団体ごとの調整は、随時情報交換を行い、実施内容の重複、時間調整を行いました。

4 広報・啓発

広報は、村外に啓発を行うよりは、村内の中心にするということで、手作りポスターの作成、新聞折り込みなどを利用し、11月3日と4日の行事を一体的に行いました。フェスティバル用に岡山県が作成したのほり、ガイドブックなども村内各所に掲示し、有効に活用させていただきました。



5 成果と課題

(成 果)

当日は天気も良く、全事業を2日間で延べ462人の方に参加いただきました。村民の半数近くになる数字なので、事業は成功だったように思います。

スタンプラリーにも村外の方を含めてたくさんの方に参加いただきました。

また、あまり村外に啓発していなかったのですが、これを機に新庄村で実施していることを県内の皆さんに知っていただくことができました。

「風の子文庫まつり」では、さるかに合戦という一般的な題材を取り上げながら、さらにそれと桃太郎を併せて、オリジナルの劇を作っていくとか、昔話の「三枚のお札」を題材にしながら四枚目のお札を登場させるとか、独自のユーモアを交えて内容を作り上げていました。大人が見ても十分楽しめるもので、風の子文庫に係わる皆さんの豊かな想像力が現れていました。

「ふるさと文化祭」については、出演者の表現力、技術もすばらしく、団体ごとにバラエティに富んでいる内容で実施することができました。



運営から実施いたるまで、100名を超える村民の皆さんに作品の展示、出店、出演等に協力をいただいております。生涯学習に対する理解の深さを実感することができました。

(課 題)

反省会の中では、内容のすばらしさの割には、人出がもうひとつだったように感じたという意見がありました。「新庄中学校学習発表会」については、保護者の参加もあり、会場が一杯になるほどでしたが、「風の子文庫まつり」、「ふるさと文化祭」については、内容がすばらしいだけに、まだ大勢のみなさんに参加者していただけたらという感想がありました。

例年、12月頃から積雪があり、雪の中で1月、2月を過ごした後、3月に文化祭を行うという、春を待つ行事だったものを11月に実施したのは、積雪がなく動きやすいという反面、まだ農作業があったり、他の行事があったりということで、参加者が幾分少なかったように感じられたと思います。

今後も生涯学習に携わる皆さんの発表の場であるように、観客としてではなく、出演できるように、また、展示品を見るだけでなく、見てもらうように、支援と交流を広げていく取組が必要です。



西粟倉村

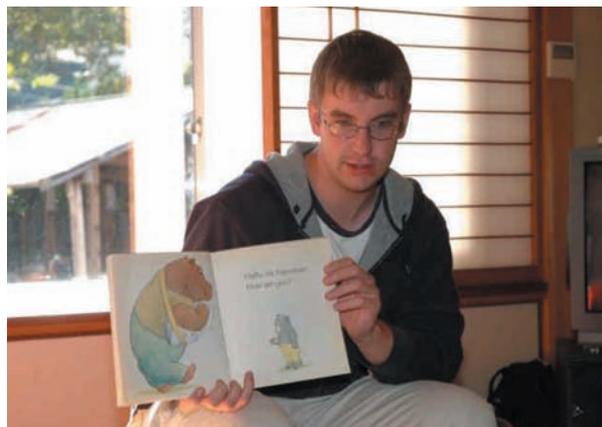
1 推進体制

西粟倉村は、第19回全国生涯学習フェスティバルの成功に向け、市町村主催事業として『あわくら図書館フェスティバル』事業の企画・運営を円滑に行うための組織として、関係機関・団体による全国生涯学習フェスティバル西粟倉村実行委員会を設置しました。

2 基本方針

西粟倉村では、実行委員会を中心に、関係団体及び地域住民と連携・協働し、以下の目的であわくら子ども図書館を核とした西粟倉村らしい、親子・家族・地域がふれあい、体験出来るフェスティバルを開催しました。

西粟倉村の中央に位置する公民館には、蔵書数27,000冊の図書室（あわくら子ども図書館）があります。蔵書の65%が児童書で、近隣町村と比較すると相対的に児童書が充実しているため、児童書目当の村外利用者が増える傾向にあります。しかし、村内では出生数が10人を下回る傾向にあり少子高齢化は加速し、更に子どもの読書離れなどにより図書室の存在価値が問われかねない状況になりつつありましたが、読み聞かせボランティアさんの地道な活動やブックスタートの実施により子どもたちの読書活動推進に力を入れてきました。しかし、専門職員（司書）もいなければ、図書館としての環境設備も整っていないため、利用者拡大にはつながっていませんでした。それを打破するひとつの施策として「あわくら図書館フェスティバル」を実施することに決定しました。さらに図書館のイベントだけでなく、生涯学習の発表の場及び生涯学習活動に取り組んだことのないひとたちも何かを始めてみようとするきっかけ作りの場となるような楽しめる事業など多くの方が参加し、活躍できるイベントを実施することにしました。



3 企画運営・事業展開

(1) 企画運営

事業の実施に当たっては、基本方針に沿って、教育委員会、関係団体及び地域住民と連携・協働し、西粟倉らしい親子・家族・地域がふれあい体験できる事業の内容・実施方法等について協議し、実施しました。

◎主催事業「あわくら図書館フェスティバル」

日時：11月3日(土) 10時～15時

会場：あわくら会館

内容：

●図書館事業

- ①読み聞かせの会「ピッピ」による『絵本の読み聞かせ』『昔ながらの自転車紙芝居』
- ②小・中学生のボランティアによる『一日図書館員』
- ③『本の宝探し』（本を調べてクイズ解き明かせ）
- ④親子で、自分で、ワクワクドキドキ手作り絵本をつくろう体験
- ⑤西粟倉村のブックスタートの歴史
- ⑥私のイチ押し本展示
- ⑦お宝本リサイクルコーナー

●地域の方とのふれあい体験

- ⑧昔なつかしの遊び（めんこ、コマなど）の提供と指導
- ⑨カレーライス、昔なつかしの駄菓子の販売

●生涯学習発表

- ⑩あわくら太鼓の披露
- ⑪道教室によるお茶席
- ⑫手品の披露

4 広報啓発

- ・広報「にしあわくら」(10月号)に案内掲載
- ・村内文字放送、無線放送で全戸にお知らせ
- ・ポスターを幼・小・中・図書館のほか各公共施設等に掲示
- ・チラシ・リーフレットを村内各世帯に配布
- ・リーフレット・ガイドブックを各公共施設窓口に配置
- ・ミニチュアのぼり旗・マスコット人形等を庁舎窓口等に配置

5 成果と課題

● 成果

11月3日当日は図書館内はもとより、外の会場も晴天にも恵まれ多くの方の参加があり盛況に終わりました。

この、フェスティバルを実施して、あまり図書館を利用されていない方、知らない方も来場し活用するなどの成果が見られ、今後の図書館利用につながるきっかけになりました。また、生涯学習発表の一つの場ともなり、青空の下、多くの方の前で大人も子どもも日頃の成果を発表することができ、新たに活動したいというきっかけ作りができました。また、多くの親子、家族、そして地域の方が一緒にものを作成したり、ふれあい体験する場面が多く見られました。

小・中学生の一日図書館員は自分の仕事に責任を持って積極的に動き活躍するなど、円滑に事業を進めることができました。準備から多くのボランティアの方の協力により、様々なコーナーを責任持って実施することができ、今回構築された協力、連携の輪は今後様々な事業に活躍できると実感しました。



● 課題

「生涯学習」ということで、本村が既存で行っている文化祭と福祉大会合同で行っている「ふれあいまつり」を毎年開催していますが、この全国生涯学習フェスティバル期間に(11/2~11/6)で行うには、季節的に大変寒くなり、会場設置等の問題により実施することが難しく、合同実施機関、参加者等からも時期を変更し実施することに理解を得られることができませんでした。そのため、事業内容決定までに時間がかかりました。

また、県主会場が遠方のため住民参加というのは難しいですが、他市町村事業に参加できることは良いと思います。しかし、開催期間が短く、近隣の市町村事業と開催時期が重なるため、魅力ある事業を実施しても、参加者の奪い合いとなり、交流人口の拡大とならず、イベント参加者、スタッフ等も「近隣の市町村で参加してみたいイベントがあるのに行けなかった」という声や参加者の中でも他市町村と一緒に活動している方もおられ掛け持ちで活動されているので大変だったという声がありました。全市町村あげての実施はよいですが、地域の実情もあるため短い開催期間については検討の必要がありました。